

ArcGIS を利用した地理院地図の活用

2026 年 1 月 28 日(水)
ESRIジャパン株式会社
平松 龍騎



内容

- 会社紹介
- ArcGIS について
- ArcGIS を利用した地理院地図の活用
- トピックス
- 開発リソースのご紹介
- まとめ

会社紹介

ESRIジャパン株式会社



ArcGIS を中心とした GIS (地理情報システム) 関連の製品販売&サービスを展開

設立: 2002年

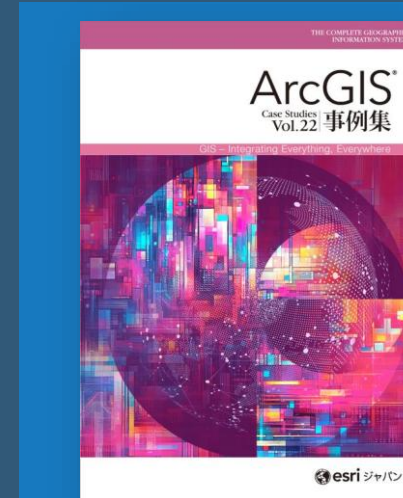
代表者: 正木 千陽 代表取締役会長

山口 格 代表取締役社長

従業員数: 約280名

ユーザー数: 29,000 組織、39万ライセンス

GIS パッケージソフトウェア国内最大手*



GIS の世界的リーディング企業 Esri 社



本社所在地：
米国カリフォルニア州レッドランズ市



代表者：
Jack Dangermond 社長



世界最大級のGISイベント
Esri User Conference

1969年 創立

1982年

世界初の商用GISをリリース

GISソフトウェアの世界市場で
シェア **No.1**

* ARC Advisory Group, 2019年 調べ

収益の **30%** を
研究開発に再投資

全世界で **73万** 以上
の組織が導入

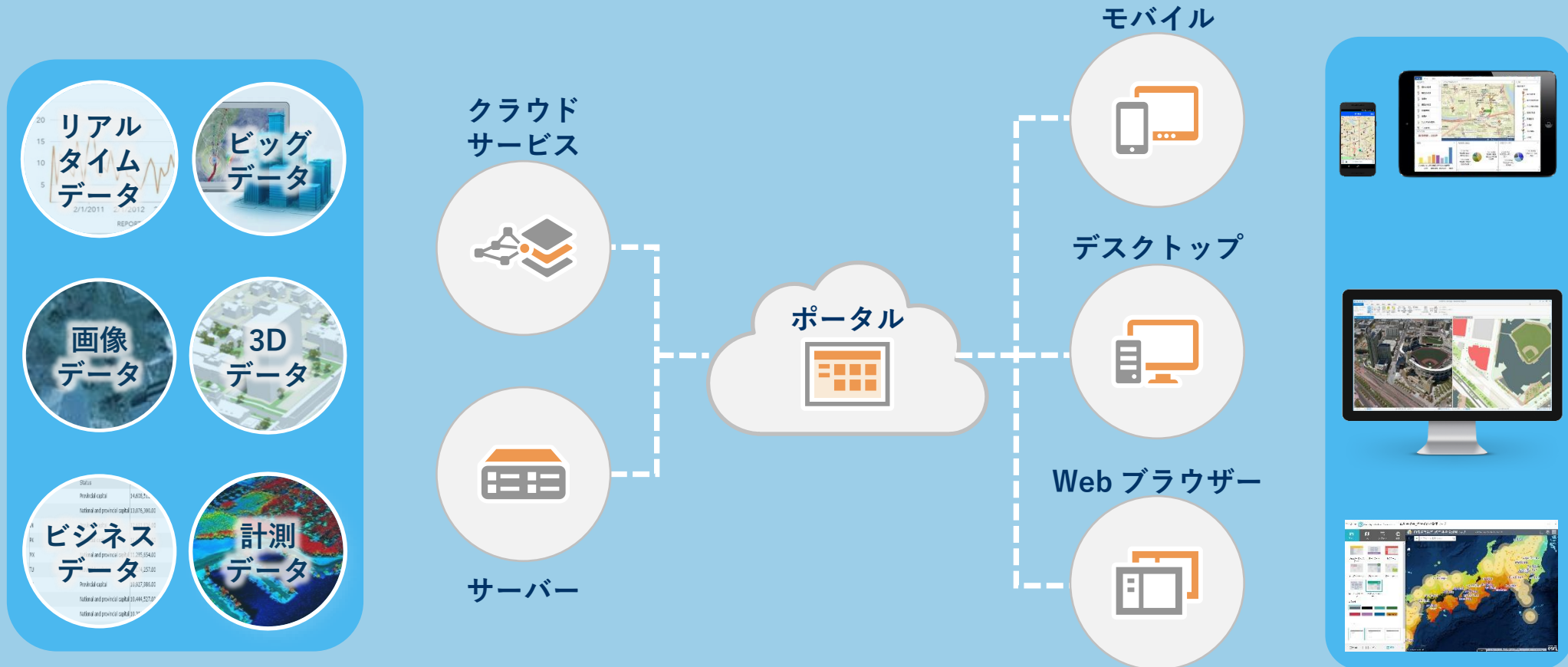
Esri のクラウドGISサービスを
1000万 以上
のユーザーが利用

Fortune 100 企業の
90% が導入

ArcGIS について

ArcGIS

地理空間情報を最大限に活用できる GIS プラットフォーム



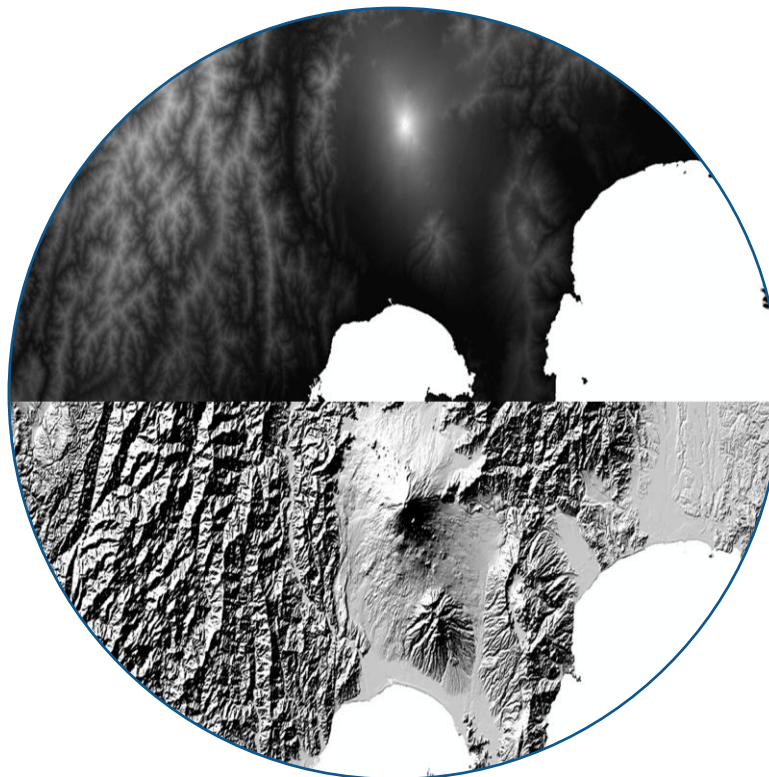
「あらゆる地理空間情報」を「あらゆる環境」で活用

ArcGIS を利用した地理院地図の活用

ArcGIS における地理院地図の活用



ベースマップ



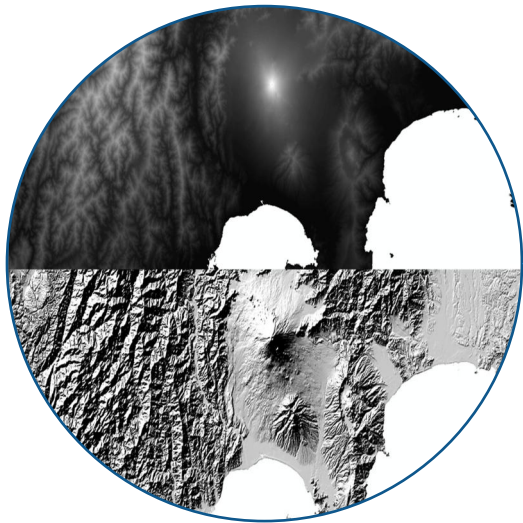
DEM / 陰影起伏



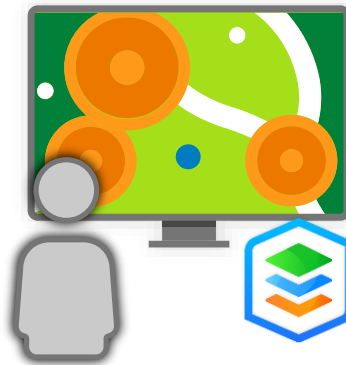
空中写真 / オルソ画像

ArcGIS における地理院地図の活用

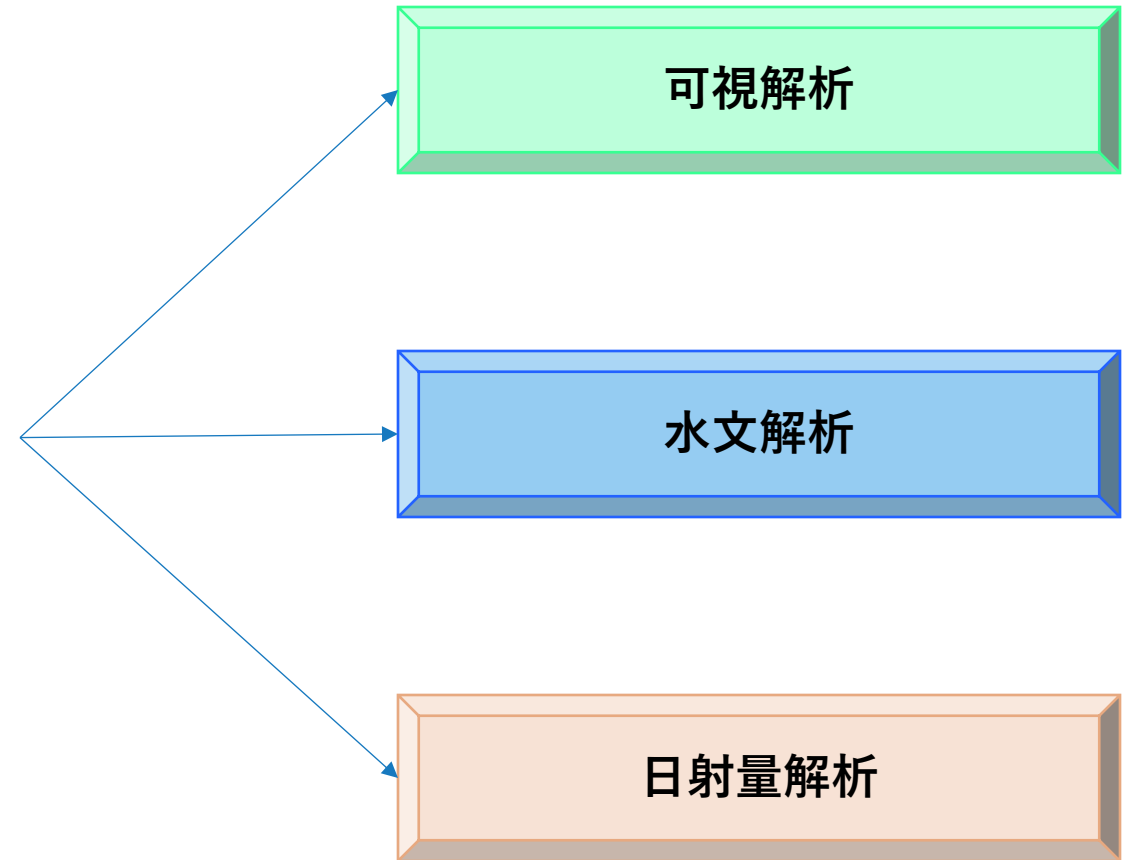
DEM / 陰影起伏 を用いてできること



DEM / 陰影起伏

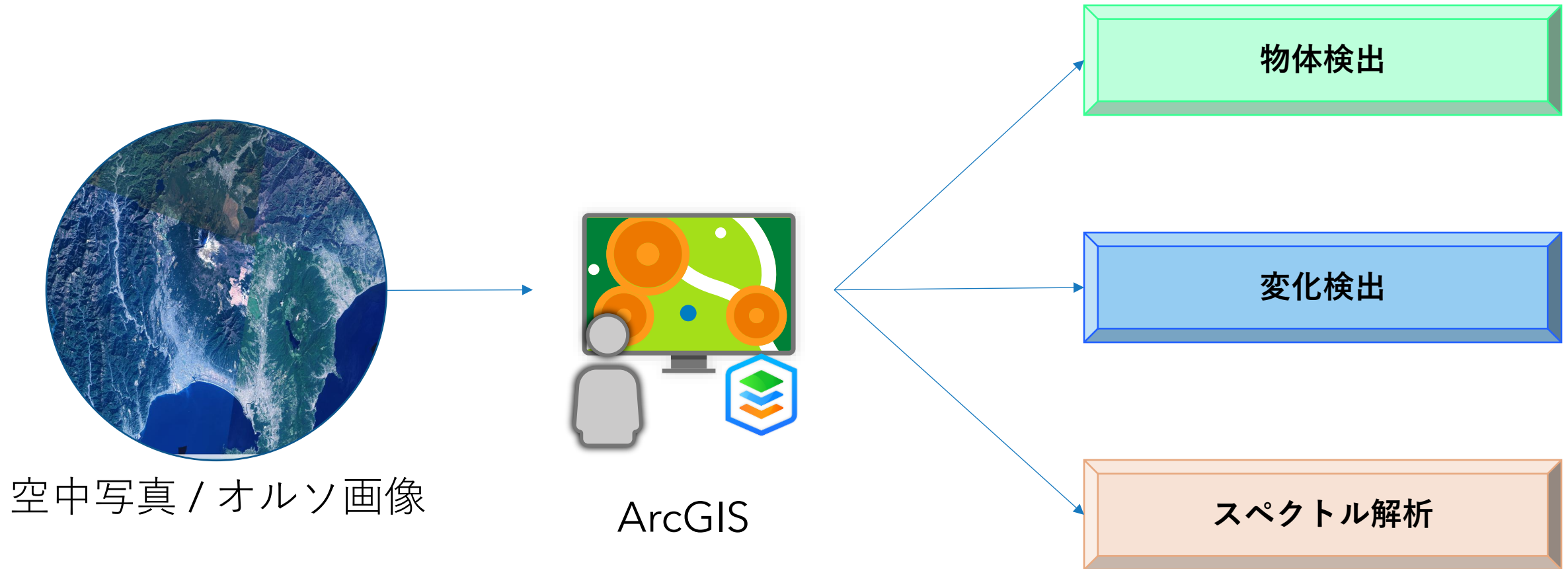


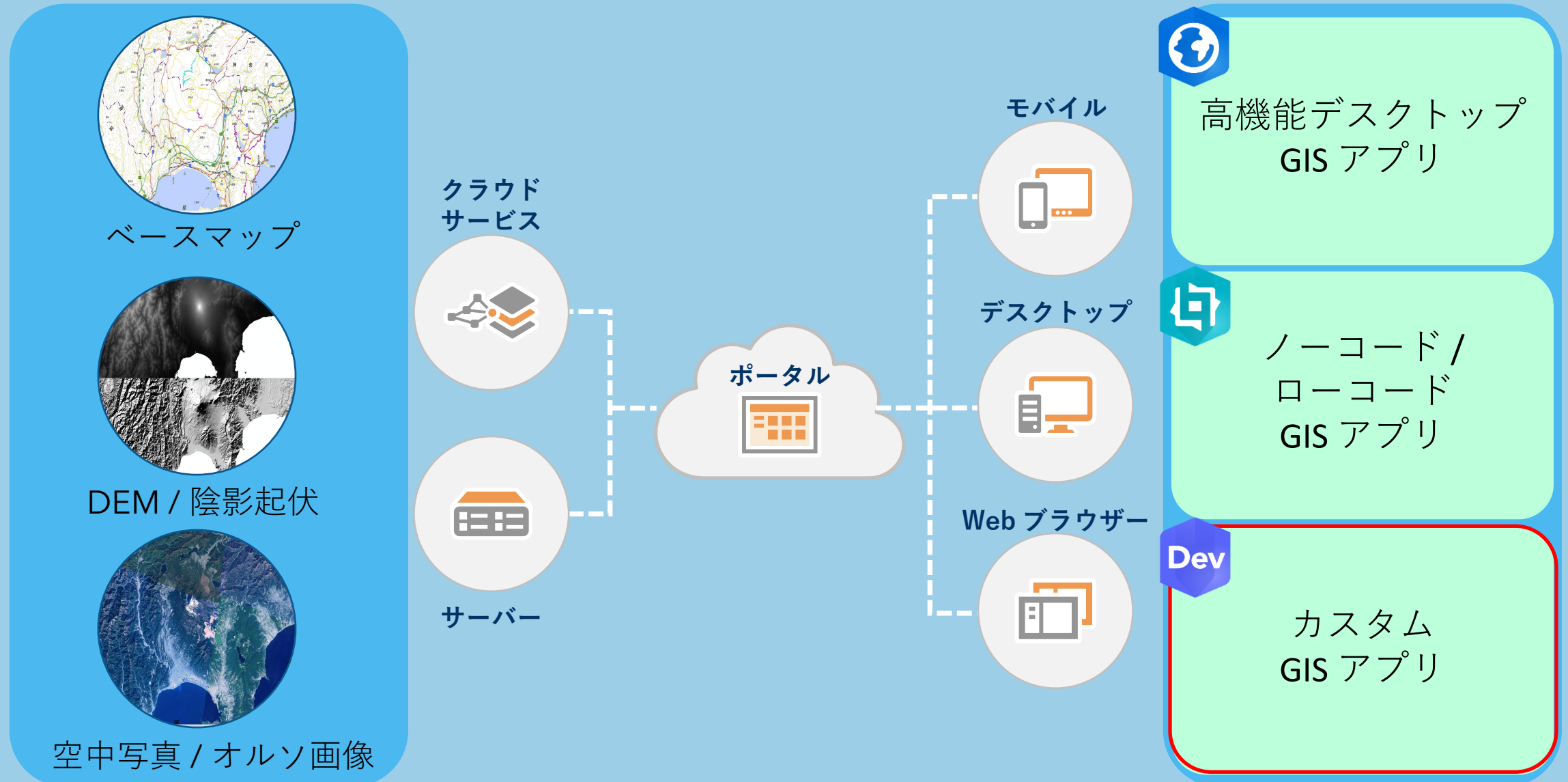
ArcGIS



ArcGIS における地理院地図の活用

空中写真 / オルソ画像 を用いてできること





よくある問い合わせ

- ArcGIS で地理院地図のベースマップを利用したい
- 自社で保有しているデータを簡単に重ね合わせたい
- 自社のデータを強調するためにベースマップ（地理院地図）をカスタマイズしたい

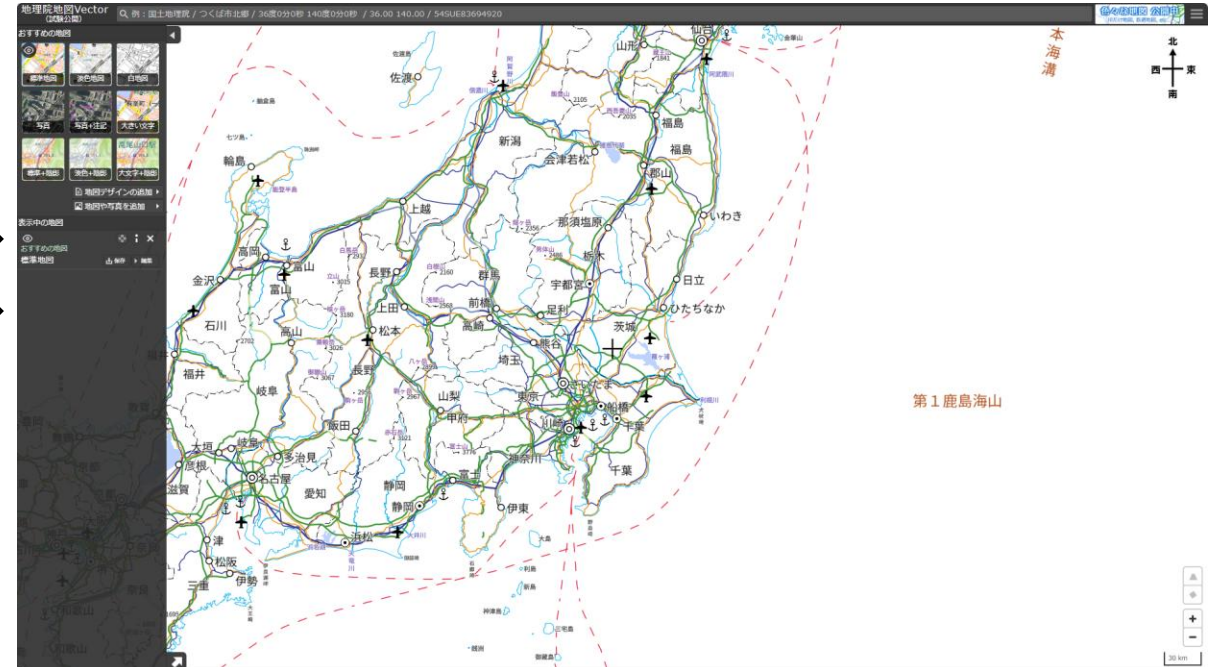


ArcGIS × 地理院地図 Vector

ArcGIS の強み

- 独自のデータを簡単に公開
- 公開データを簡単に参照
- フィーチャのデザインを簡単に設定、変更

地理院地図 Vector



開発要件

データホスト

 ArcGIS Online

アプリ開発

 ArcGIS Maps SDK for JavaScript

ベースマップ

 地理院地図 Vector



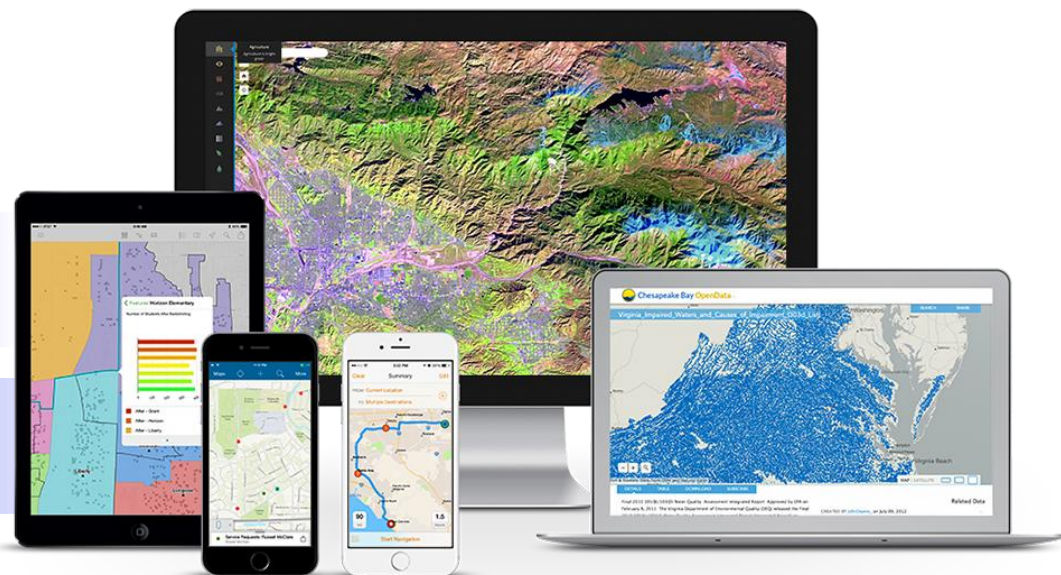
ArcGIS Online

いつでもみんなが使える GIS

マップの作成

データの解析・操作

共有・共同作業



いつでもどこでも、必要な時にアクセスして利用可能



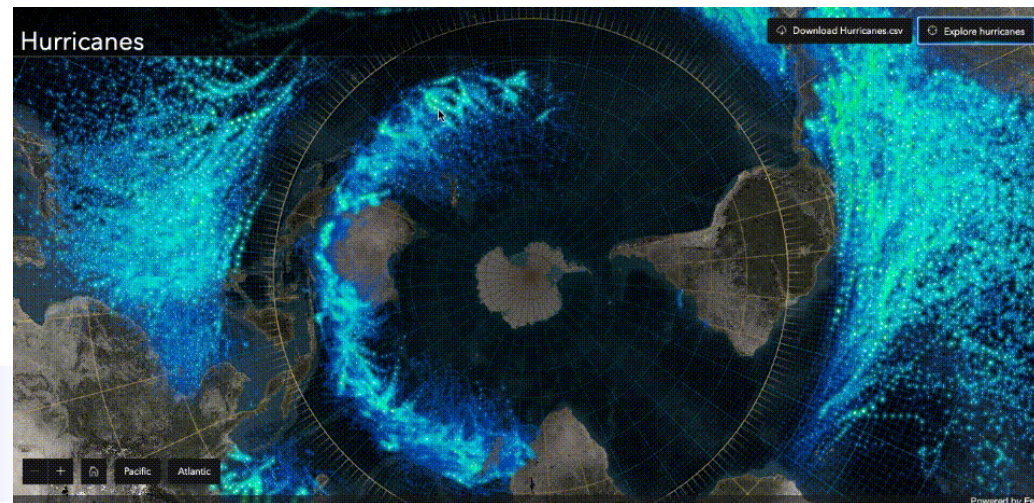
ArcGIS Maps SDK for JavaScript

インタラクティブな Web 地図アプリ開発をサポートする強力な SDK

WebGL を用いた高品質な描画

豊富なビジュアライゼーション

多様なデータソースをサポート



すぐ Web 地図アプリを開発できる
自由なカスタマイズで UI/UX も考慮した開発をサポート

ArcGIS Maps SDK for JavaScript で 地理院地図のベクター タイル データを重ねる方法

- VectorTileLayer クラス

下記のようにインスタンスを作成することでマップに追加が可能

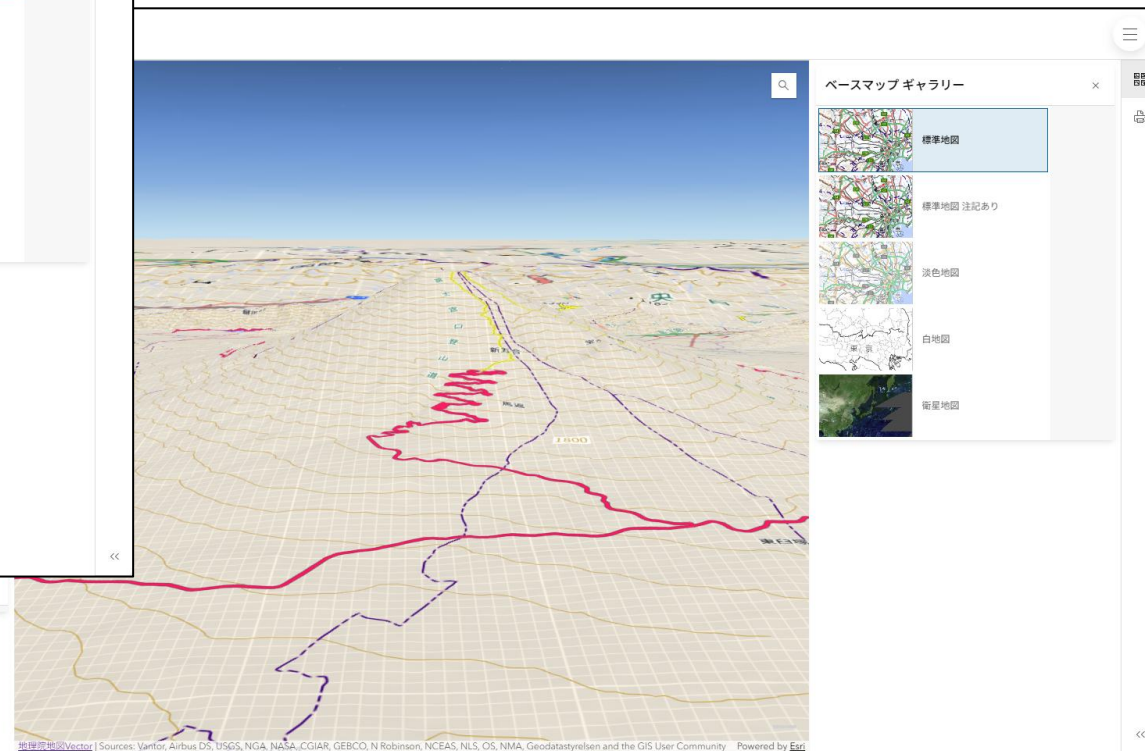
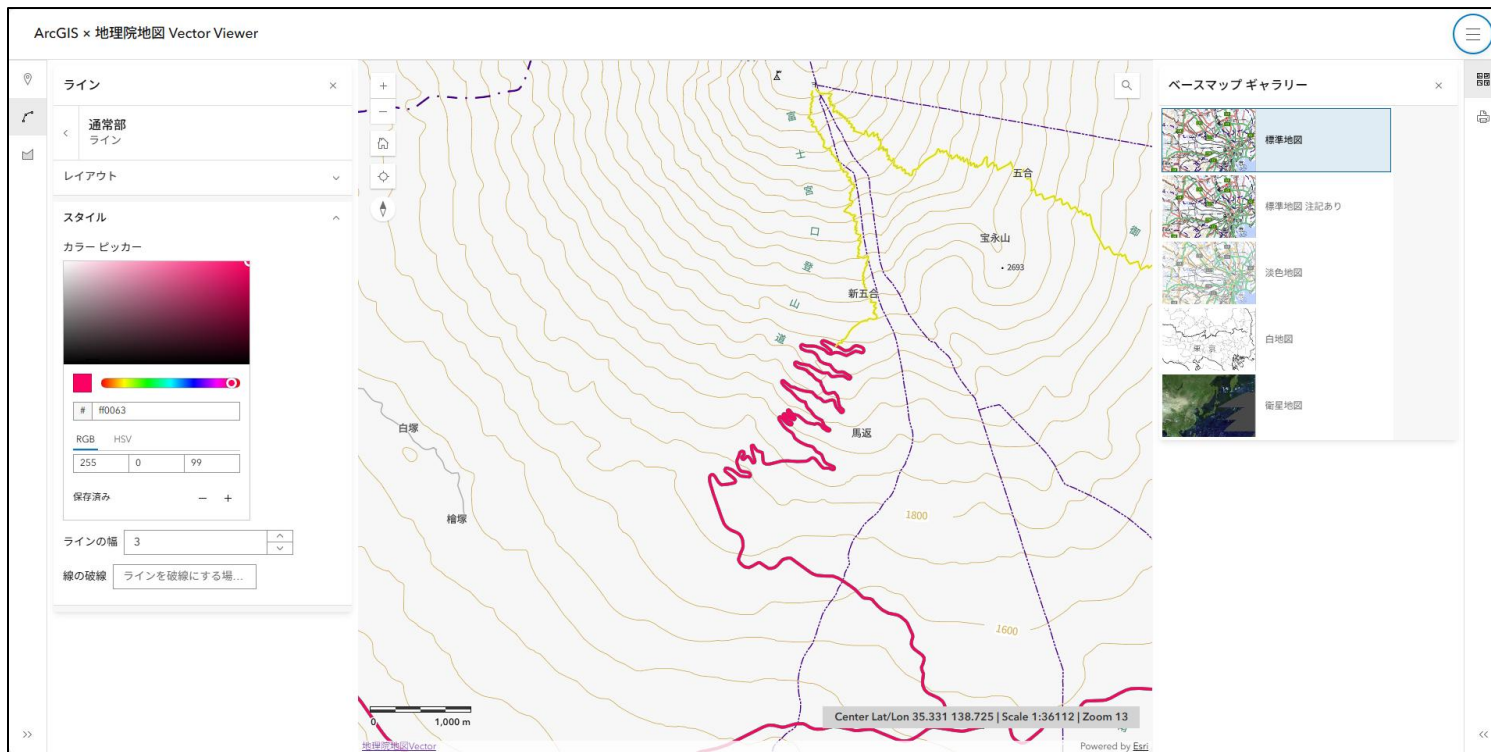
```
new VectorTileLayer{  
    url: "<地理院のスタイル ファイルの参照 URL>"  
});
```

ベクター タイルを追加やベースマップとして利用する方法に関しては、
以下のブログにて紹介しています。

[「地理院地図Vector」 \(仮称\) を ArcGIS で表示してみました - Esri Community](#)

[「地理院地図Vector」 \(仮称\) を ArcGIS で表示してみました - 第2弾 - Esri Community](#)

デモ



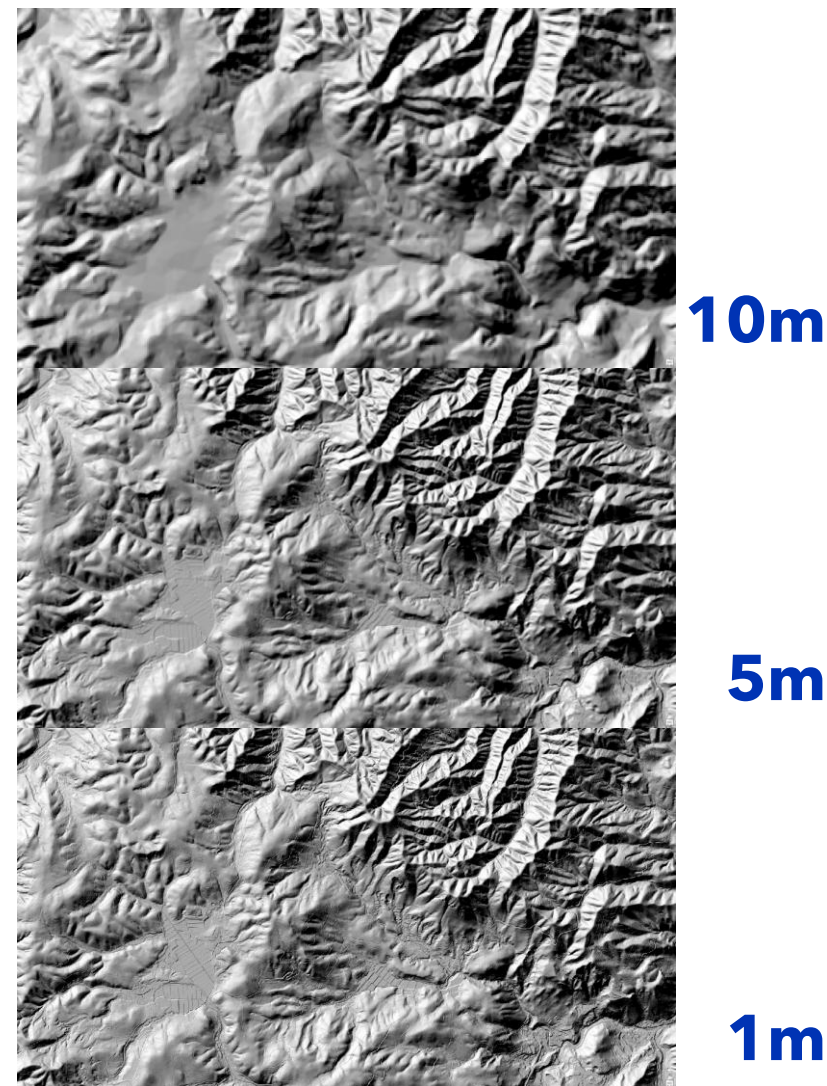
動作確認用 URL : <https://esri-japan.github.io/arccgis-samples-4.0-js/samples/gia/>

GitHub : <https://github.com/EsriJapan/arccgis-samples-4.0-js/tree/gh-pages/samples/gia>

トピックス

1m メッシュの数値標高モデル対応

- ArcGIS Pro で使用できる
1m、5m、10mメッシュの数値
標高モデルを変換するツールを
無料公開中
[アドイン ツール | ArcGIS リソース集](#)
- 1m メッシュの DEM、陰影起伏
データの近日販売予定



測地成果 2024 への対応

- **ArcGIS Pro 3.6**
ArcGIS Enterprise 12.0
より測地成果 2024 に標準対応
- 水平座標系
 - 日本測地系 (JGD2024)
 - 平面直角座標系第1～19系 (JGD2024)
 - UTM 座標系 第 51～56 帯N (JGD 2024)
- 鉛直座標系
 - 日本測地系 (JGD2024)
 - Japanese Geodetic Datum 2024 (vertical) height



開発リソースのご紹介

ArcGIS Developers 開発リソース集（日本語）

• 開発者アカウントの作成～アプリ公開までの簡単な手順

- 開発者アカウントの作成
- API キーの取得
- ロケーションサービスの利用
- API/SDK を利用したアプリ開発
- セキュリティと認証の紹介
- デプロイの紹介



ArcGIS Developers 開発リソース集

本サイトは、ArcGIS の API / SDK を利用して開発する方向けに、開発をよりスムーズにスタートしていただけるよう、ArcGIS Platform を利用した開発、開発環境の構築から簡単なアプリケーション作成までのガイド、開発に役立つ技術 Tips 集を紹介しています。

ArcGIS Platform は、ロケーションサービスを提供する PaaS（Platform as a Service）です。サービスの詳細は [ESRI ジャパン製品ページ](#) をご覧ください。

ArcGIS Developers が提供するサービスの詳細は [ESRI ジャパン製品ページ](#) をご覧ください。

目次

- スタートアップガイド
 - 開発を始める方のために必要なアカウントの作成、API キーの取得、ロケーションサービスの利用、各 API / SDK を使った開発の基本的な流れからセキュリティ、デプロイまでと ArcGIS Platform を利用した開発手順にそって学べる情報をまとめています。
- もっと学ぶ
 - スタートアップガイドをひととおり学び終えた方は、次のステップとして、何を見て学習すれば良いのか、より深く学べるように情報をまとめています。米国 Esri 社が無償で提供している学習素材や、ESRI ジャパンのスタッフが作成したサンプルプログラム、過去に実施したセミナーやハンズオンの資料、ブログ記事など、多くの情報をまとめています。
- 技術 Tips 集
 - 各 API / SDK を使用した開発をサポートするドキュメント（インストールガイド、アプリケーションの配布など）や、データの可視化に関する技術 Tips をまとめています。

プライバシーポリシー

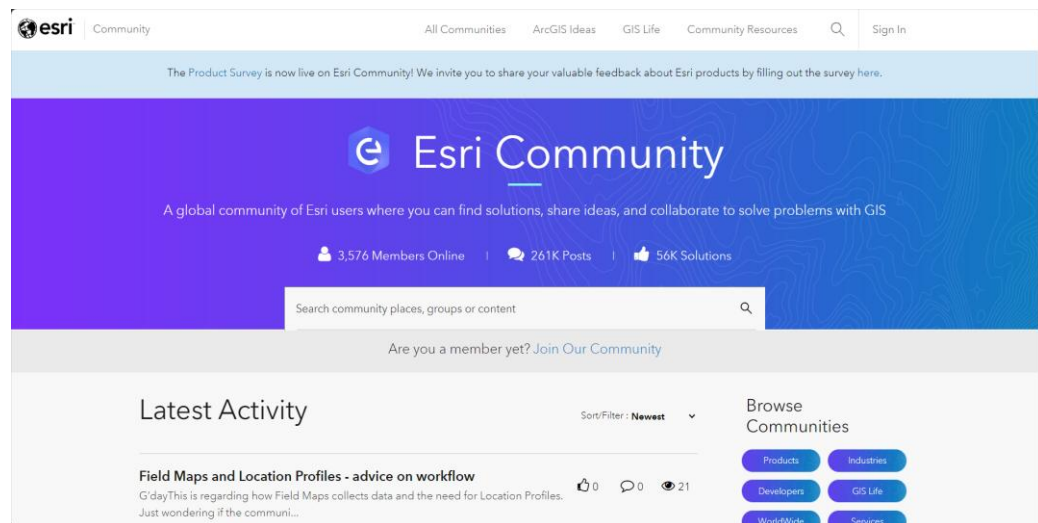
- [ESRI ジャパン Web サイトポリシー](#)

[ArcGIS Developers 開発リソース集 \(esri-japan.github.io\)](https://esri-japan.github.io)

Esri Community

- 米国ESRI が提供している Esri コミュニティのサイト
- ユーザー、米国ESRI スタッフ、ディストリビューターが参加
- 各種 API / SDK の質問や回答
- Esri Community 内の弊社が管理する開発者向けグループ
- 開発ブログを定期配信

All Communities > Global > ArcGIS 開発者コミュニティ



<https://community.esri.com/>



<https://community.esri.com/t5/a/tkb-p/arcgis-japanese-developer-community-docs>

まとめ

- ArcGIS ではさまざまなデータタイプを簡単に統合可能
- DEM/陰影起伏、空中写真/オルソ画像を使用して高度な解析が可能
- 既存機能で満たせない要件はカスタム アプリで対応可能
- 最新のトレンドにも適宜対応

